

< 高付加価値型農業に取り組む事例 >

地域資源を活用した高付加価値型農業の取組み

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県 <small>しこくちゅうおうし</small> 四国中央市 <small>なかの</small> 中野			
協定面積 10.9ha	田 (2%)	畑 (98%)	草地	採草放牧地
	水稻	茶、山菜、あじさい		
交付金額 127万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	水路・道路等の維持管理		18%
		多面的機能増進		9%
		役員報酬		10%
研修・その他		13%		
協定参加者	農業者19人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、四国中央市新宮町に位置し、従来から地域の活性化を図るため、地元住民が中心になった「あじさいの里」づくり等のボランティア活動が積極的に行われている地域である。

このため、協定締結に際しても、「これまでの共同活動の延長上である」という参加者の自信と、山間部ならではの地域資源を活かした農業への取り組み意欲が高いことから、『生産体制の組織づくりと後継者の育成』を目標に、本制度に取り組むこととなった。

3. 取組の内容

当集落では、山間部の利点を活かし、特産のお茶を中心とした減農薬栽培等に取り組む、環境にやさしく安全性の高い生産活動を実施している。

また、集落活動の中心である「あじさいの里」づくりでは、近隣集落の住民と連携し、4haで2万株のあじさいの維持・管理を行っている。さらに、例年6月下旬に開催される「あじさい祭り」の運営に携わるとともに、特産のお茶や、山菜等の地場産農産物の加工・販売にも取り組んでおり、あじさいの開花期には2万人を超える来場者で賑わっている。



【減農薬で栽培されたお茶畑】



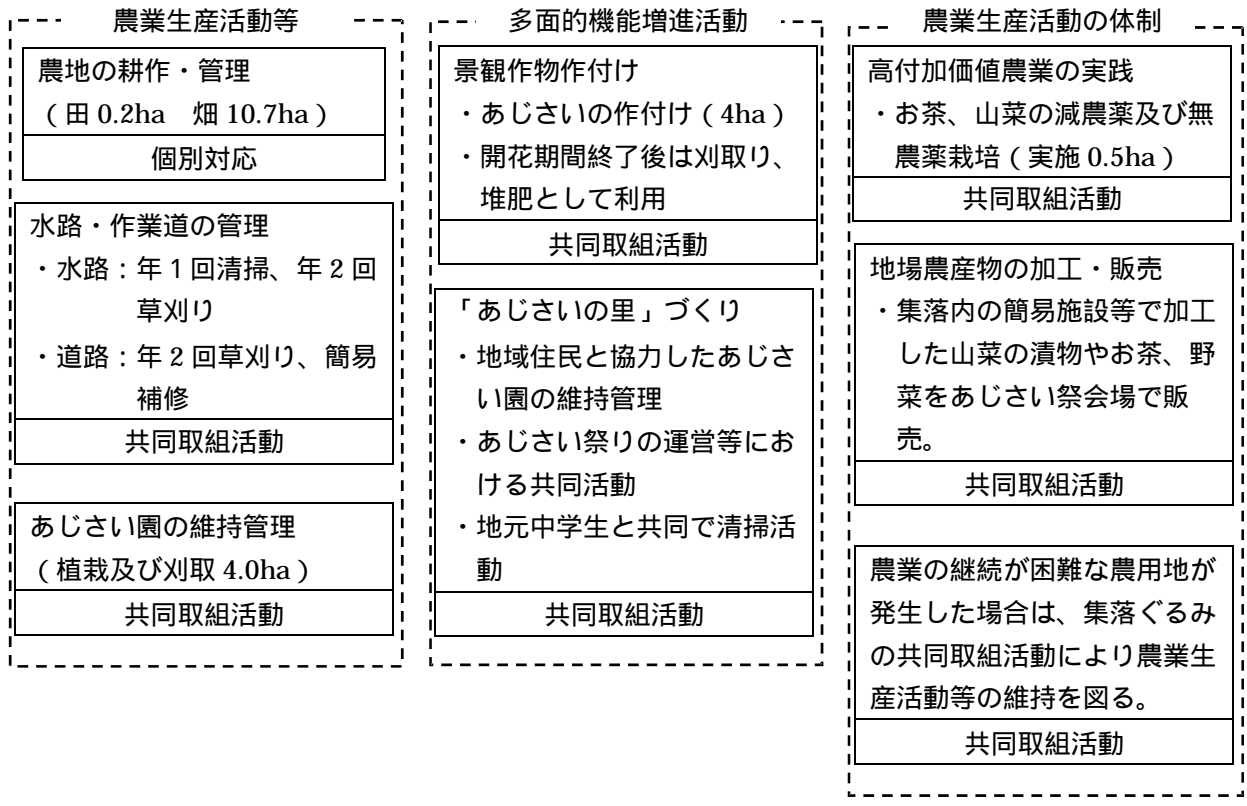
【開花期のあじさい園】

[集落の将来像]

地域の実状に即した持続的な農業生産活動等の体制を整える

[将来像を実現するための活動目標]

あじさいの里づくりを通して集落の連携を深め、お茶の生産を中心に減農薬、減化学肥料、無農薬有機栽培による、自然にやさしく安全性の高い農業生産活動に取り組む。



集落外との連携

あじさい祭りの開催に合わせ、近隣集落の住民と連携し、あじさいの植栽、刈込み等、維持管理活動を行っている。

4 . 今後の課題等

これまでの活動を通じて、当集落では、地域資源を活かした農業生産活動が定着しつつあり、また、あじさい祭りの開催や地場産農作物の販売等を行うことが、地域の活性化にも繋がっている。

今後は、これらの取り組みを将来にわたって継続していくため、集落の認定農業者を中心とした農業生産体制の組織づくりと、意欲と能力のある後継者の確保・育成が必要と思われる。

[第 2 期対策の主な成果]

あじさい祭りの運営に携わり、その事業の中で、地域住民や都市住民との交流が図られた。
(開催時期：6月下旬、開花時期の来場者数：2万人)